

海風の帰り道

— たたただ望む —



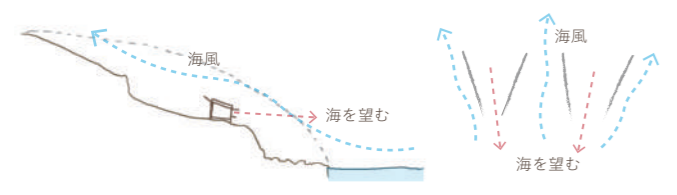
「今のままでよい。」と感じさせられる、大らかな休憩所。
 老朽化が激しく、少し狭いトイレ。
 目の前には浅浅の海とどこまでも続くかのような
 青空が広がり、周りを見渡せば山々に囲まれる。
 それらを包み流れてゆく海風。
 敷地に足を運ぶたび、この土地の魅力に惹かれた。
 その魅力を生かした設計を行いたいと考えた。

1 コンセプト - 海風の帰りを待つ壁 -



敷地はサトウキビ畑を突き進んだ先の海岸沿いである。周囲の地形はなだらかな丘や山があり、敷地を訪れると、やわらかい風に包まれた。

そこで本計画では、海風がトイレと休憩所の壁や屋根をつたって、敷地奥に抜けていく計画とする。海風を迎えるため、門型壁柱+雑壁+大屋根による構造体とし、海風の帰り道を敷地西側より連続させ、この地を訪れる人々にただただ海を感じ、望む機能に重点を置いた施設とした。



敷地条件と景色に建築物が取り込まれていくような計画とする

2 大度浜海岸 - 様々な人を呼ぶ土地 -

ふたり寄り添って海を眺める恋人たち、膝にこどもをのせてお昼ご飯を楽しむお母さん、海風を感じながら横になる少年。ひとつのベンチにもいろんな使われ方が発見できた。また、県内外からサーフィンをしに来る人たちの傍らで、朝散歩にくる近所の親子やおじいちゃんなど、所属や年齢、性別など関係なく様々なひとに愛されている土地なのだと実感した。そこで、いろんな人のいろんな行動を包容し、楽しんでもらえるおおらかな施設を計画したいと考えた。



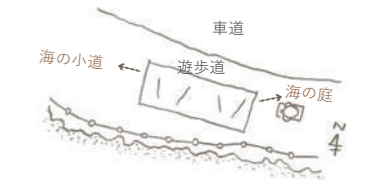
放課後自転車やってくる少年達

3 配置計画 - 海を望むトイレと休憩所 -

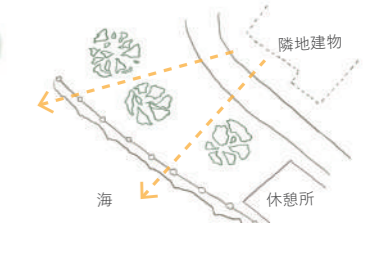


海岸に沿ってトイレと休憩所を配置し、大度浜の海を楽しんでもらえるよう計画する。

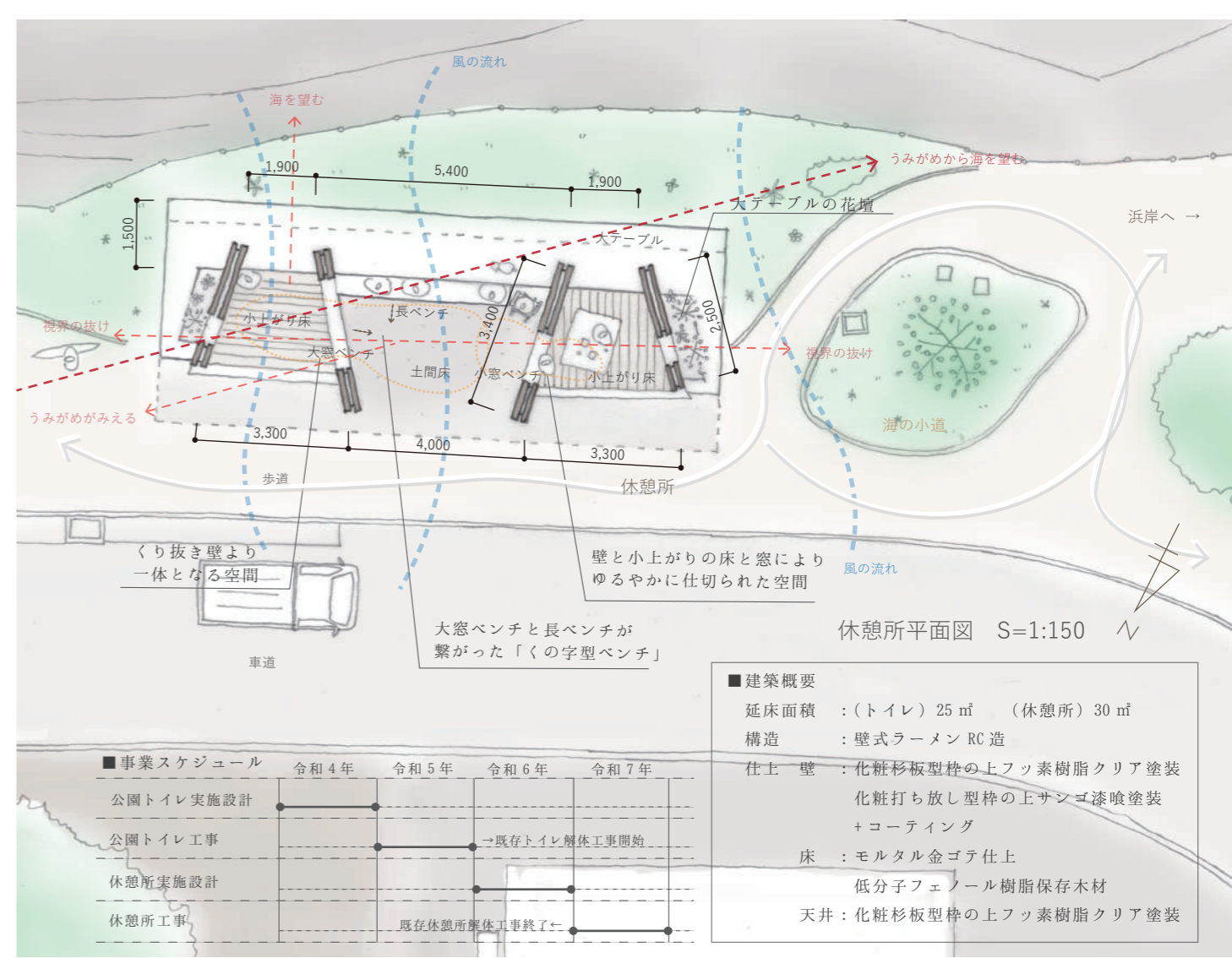
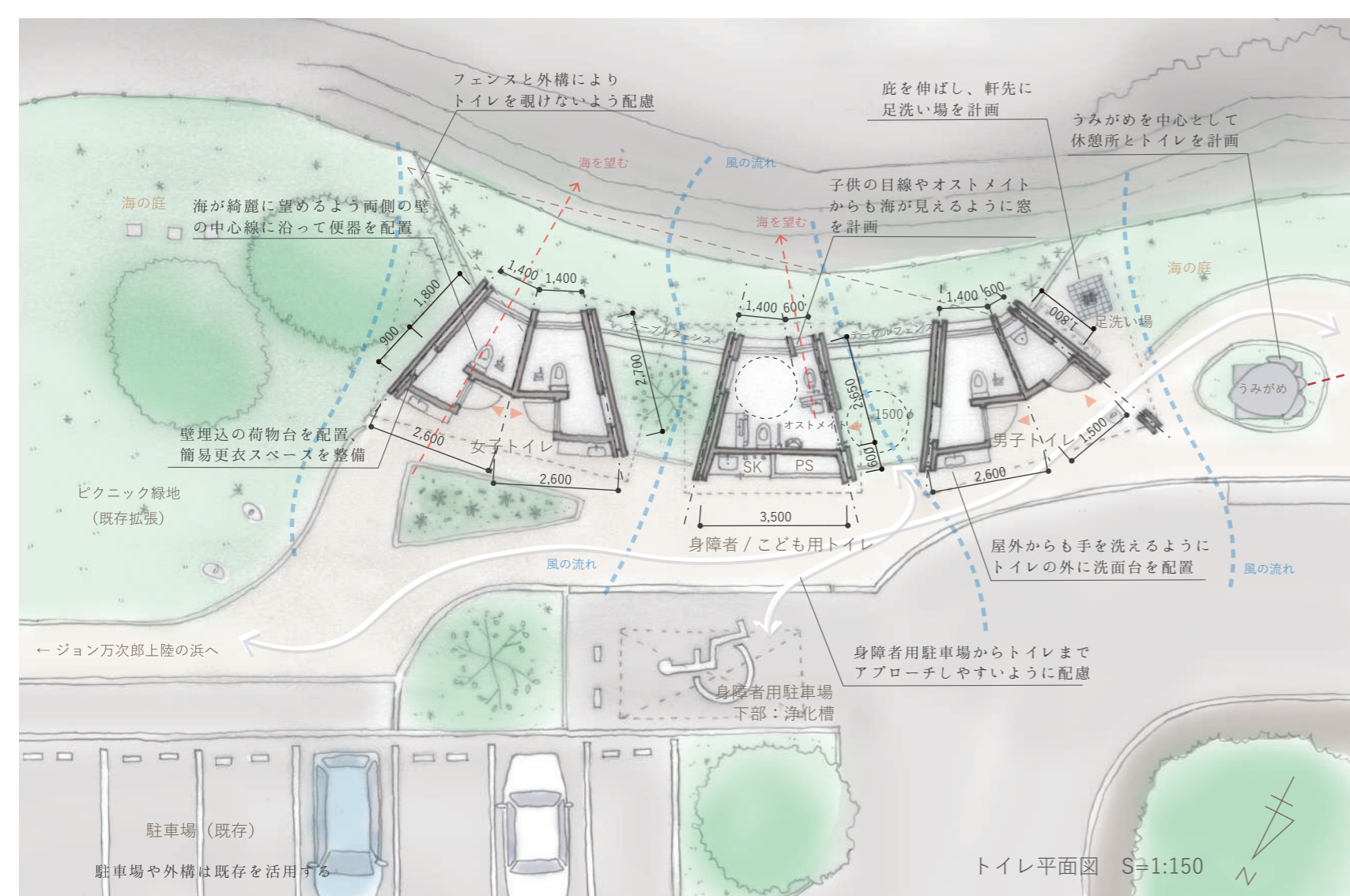
■現状を生かした配置計画
 ①人々が集い、憩う木々を残す
 ②休憩所を境に「海の小道・海の庭」を配置し、現在の回遊性、滞留性を維持



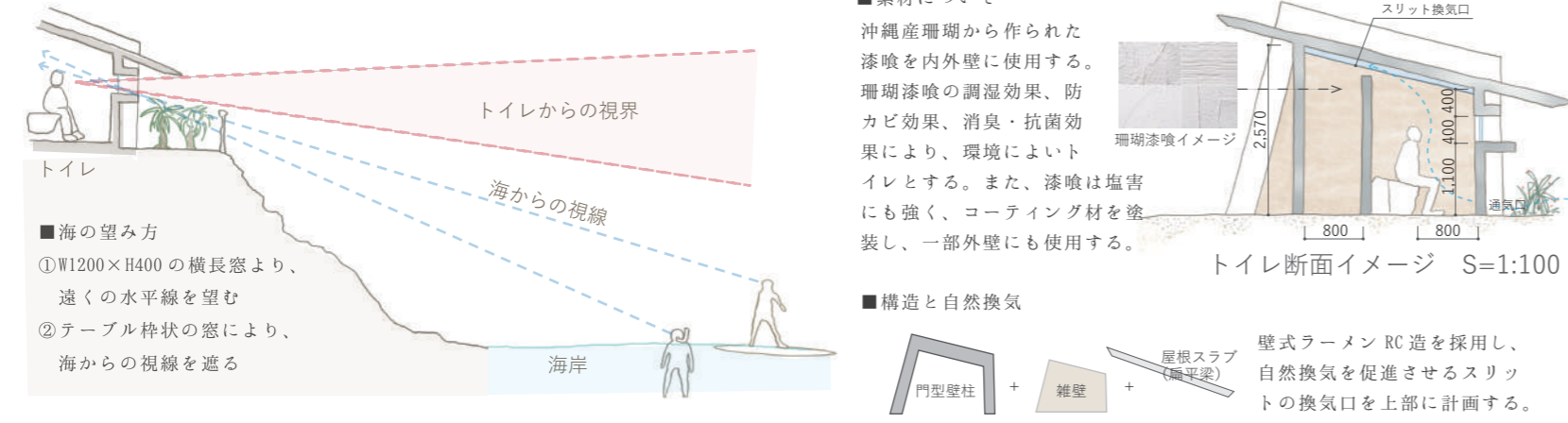
■土地性を考慮した配置計画
 ①隣地からの視線を遮らない配置計画
 ②線状に建物を配置することにより、建築群が海・陸両方のシンボルとなるよう配置



配置図 no scale



4 トイレ計画 - 開放的になれるトイレ -



5 休憩所計画 - 大屋根と大テーブルの休憩所 -

